

●●● 自己の「学び方」を振り返る ●●●

教育庁指導部 義務教育指導課長 中嶋 富美代

年の瀬を迎え、「師走」という文字どおりの日々を先生方は送られていることと思います。教育課程の変更や感染症対策の工夫等、コロナ禍における様々な対応を各学校に行っていただいておりますことに、改めて感謝申し上げます。このコロナ禍で、新学習指導要領が育成を目指す資質・能力の重要性は一層高まっており、主体的に考え責任ある行動をとることができる個人を育てるために、学習者主体の視点を重視した教育の実現が求められているところです。

皆さんは、小・中学生の頃、新しい漢字を覚える際に、どのような方法で学習を進められたでしょうか。漢字をノートに何度も繰り返し書いて覚える方法、部首の意味も考えながら漢字を書いて覚える方法、テストやドリルで間違えた漢字を選んで特に練習しながら覚える方法など、様々な方法で学習を進めていたのではないのでしょうか。また、一つの方法だけでなく、試行錯誤を繰り返しながら、自分に合った学習の進め方を見付けてきたのではないのでしょうか。

これからの社会では、生涯にわたって様々なことに挑戦し、主体的に学び続けることが求められます。「人生100年時代」と言われる中、いくつになっても知的好奇心をもって新しいことに挑戦できる力を身に付けるためには、発達段階に応じて自分に適する効果的・効率的な学習方法を、発見したり選択したりする経験をもつことが必要です。そのために、子供たちが自らの学び方を振り返り、他者の学び方に興味・関心をもち、より良い学び方を模索する経験を積んでいくことも、大切な学習となります。

前号でも触れましたが、「学びに向かう力」に焦点を当てた新たな東京都の学力調査は、個人票の返却等を通して、子供たちが自分自身の学習の進め方を客観的に見つめ振り返ることができます。

また、学校が、都の調査結果と国の調査結果とを関連付けて分析することにより、可視化が難しかった学びの知見の共有や、教師の経験的な仮説の検証、一人一人の子供の効果的な学習方法の見極め等を期待することができます。

今回の「Scrum」には、東京都の学力調査の活用方法等を掲載しています。是非、各学校の授業改善に生かしていただきますよう、お願いいたします。

掲載内容

- 継続的な検証改善サイクルの確立と組織的な授業改善の推進に向けて
～令和3年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の活用～
- 「令和3年度 東京都小学生科学展」の作品から～予想や仮説について～
- 道徳科の指導の充実に向けて
～「特別の教科 道徳」授業力向上セミナーの報告～
- 道徳教育において育む『生命の尊さ』について

東京都教育委員会のホームページ内「学びの支援サイト」

これまでに発行されたメール・マガジン「Scrum」は、こちらに掲載しています。



(URL https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/content/learning_support.html)

★ 本メール・マガジンの配信を希望する方は、件名に「メール・マガジン配信希望」、本文に所属・氏名を御入力いただき、S900024@section.metro.tokyo.jp へメールを御送信ください。

継続的な検証改善サイクルの確立と組織的な授業改善の推進に向けて ～令和3年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の活用～

小学校では令和2年度から、中学校では今年度から全面実施となった学習指導要領（平成29年告示）には、これからの社会が、どんなに変化して予測困難になっても、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現してほしい。そして、明るい未来を、共に創っていききたい。そうした願いが込められています。

また、学習指導要領では、社会に出てからも学校で学んだことを生かせるよう、実際の社会や生活で生きて働く「知識及び技能」、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」、学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」の三つの資質・能力を、総合的にバランスよく育てていくことを目指しています。

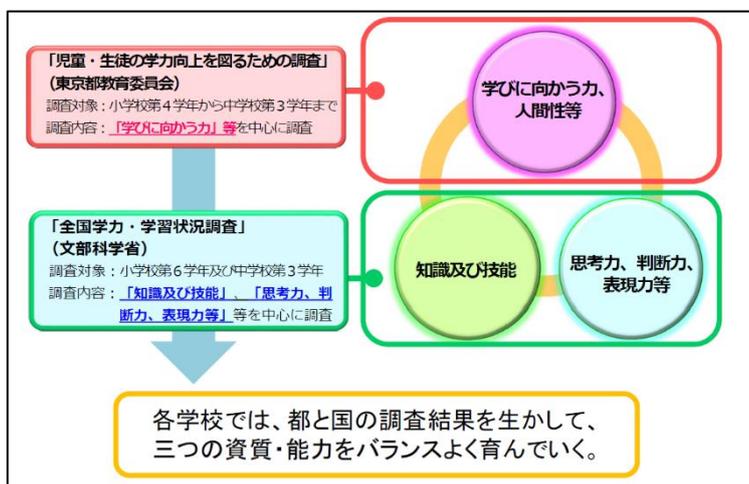
◇育成を目指す三つの資質・能力をバランスよく育むために

令和3年度から、東京都の「児童・生徒の学力向上を図るための調査」（以下、「都調査」という。）では、学習指導要領で育む資質・能力の「学びに向かう力、人間性等」のうち、「**学びに向かう力**」等を中心に調査しました。一方、「全国学力・学習状況調査」（以下、「国調査」という。）では、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」を中心に調査しています。

各学校では、都と国の調査結果を生かして、三つの資質・能力をバランスよく育てていくことが期待されます。

令和3年度の都調査は、以下の内容で実施しました。

- ◆調査実施期間 令和3年9月から12月上旬まで
- ◆調査対象 都内全公立小学校 第4学年～第6学年
都内全公立中学校 第1学年～第3学年
都内全公立義務教育学校 第4学年～第9学年
都内全公立中等教育学校 第1学年～第3学年
- ◆調査内容 児童・生徒の学習意欲や学校・家庭での学習の進め方など、「学びに向かう力」等に関する内容
- ◆調査方法 パソコンやタブレット端末を活用し、ウェブ上で回答



★調査結果等は、ウェブシステムからダウンロードできます

調査結果等は、ウェブシステム（学校管理システム等）により提供します。調査結果に加え、個人票・学校票の作成や、都調査と国調査や学校で作成したテスト等の結果との相関関係等を分析できる「調査結果活用支援プログラム」をシステムからダウンロードできます。

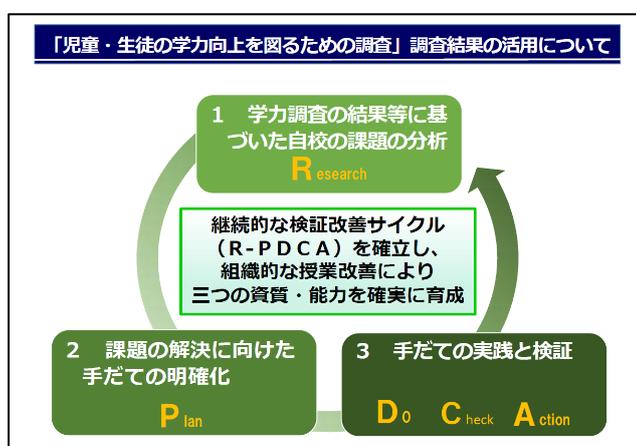
〈提供期間〉令和3年11月17日（水曜日）から令和4年1月12日（水曜日）午後8時まで

※「調査結果」確定版の提供 令和3年12月16日（木曜日）から令和4年1月12日（水曜日）午後8時まで

◇継続的な検証改善サイクル（R-PDCA）を確立し、 組織的な授業改善により三つの資質・能力を確実に育成

都調査は、東京都の児童・生徒の学力向上を図るために、国に先駆けて平成15年度から各教科の学習内容に関する問題を中心とした調査として開始し、調査対象や調査内容、実施方法等を改善しながら続けてきた調査です。一方で、国調査が毎年悉皆で行われるようになり、地区によっては独自の学力調査が行われるようになりました。しかしながら、これらの調査結果の分析や、授業改善の活用を十分に行うことが難しいという課題もみられました。

そこで、これらの課題の解決に向け、令和3年度からの都調査は、調査対象や調査内容、実施方法等を改善し、各学校が、**調査結果を活用し、国や各地区の調査結果と関連付けながら分析し、今までよりも効果的に授業改善を進め、児童・生徒に資質・能力を偏りなく身に付けさせていく**ことができるようにしています。



都調査では、児童・生徒一人一人に都調査の結果をフィードバックする「個人票」や、学校調査の結果及び学年・学級ごとの児童・生徒の調査の結果を帯グラフ等でまとめた「学校票」を、作成することができます。

本号では、児童・生徒が日常における自分の学習の進め方を振り返り、学習改善に生かすことができるようにするための「個人票」と、自校の結果と東京都全体の結果を比較したり、教師と児童・生徒の意識の差を把握したりできる「学校票」の活用について紹介します。

調査結果の活用① 個人票

都調査の個人票は、次のようなねらいに基づいて作成しています。

児童・生徒

- ・自らの学習の進め方の良い点や改善点を理解し、今後、どのように学習に取り組むとよいかを考える。

教員・保護者

- ・児童・生徒の学習の進め方等に、どのような良い点や改善点があるのかを知り、日々の指導や支援の在り方を考える。

〈個人票【裏面】〉

5 どのように学習を進めていますか (国語)		6 どのように学習を進めていますか (算数・数学)	
学習の進め方	自分の状態	学習の進め方	自分の状態
漢字や読みかたを繰り返し書いて覚えている。	●●●●	漢字だけでなく、漢字の計算も覚えている。	●●●●
漢字の部首の意味を考えながら覚えている。	●●●●	算数に計算することができないのを覚えているから計算している。	●●●●
似た漢字や似た漢字の漢字、使われている場面などを覚えている。	●●●●	漢字が読めず、算数も読めず、どこで覚えたのかを覚えている。	●●●●
テストやドリルで覚えたときは、覚えた漢字を覚えて、後に練習している。	●●●●	テストやドリルで覚えたときは、似た問題を覚えて、後に練習している。	●●●●
テストで漢字を覚えたときは、どこで覚えたのかを覚えている。	●●●●	算数で学習する算数の公式は、覚えている。	●●●●
算数や難しい漢字のときは、数字や漢字を覚えている。	●●●●	算数で学習する算数の公式は、覚えている。	●●●●
他の人の話を聞くと、メモを取って覚えるようにしている。	●●●●	算数で学習した算数を使って自分の考え方を練習している。	●●●●
自分が書いた文章を読み返し、自分の学習の進め方について確認している。	●●●●	算数で学習した算数を使った問題を解いて、自分の考え方を練習している。	●●●●
他の人が書いた文章のよさを褒めてくれるようにしている。	●●●●	自分が覚えていることと覚えていることを覚えて練習している。	●●●●
文章を覚えることができるように、大筋だけ覚えて練習している。	●●●●	算数で学習した算数の公式は、覚えている。	●●●●
文章を覚えることができるように、大筋だけ覚えて練習している。	●●●●	算数で学習した算数の公式は、覚えている。	●●●●

振り返ってみましょう

7 学校以外でどのように学習を進めていますか

学校以外での学習の進め方	自分の状態
自分で計画を立てて学習している。	●●●●
教科書を読み返して、授業でこれから学習することの関連性を覚えている。	●●●●
教科書やノートを読み返すなどして、授業で学習したことを覚えている。	●●●●
教科書やドリルの問題に取り組みながら、学習したことを覚えている。	●●●●
授業で学習した内容について、疑問を持ったことを覚えている。	●●●●

振り返ってみましょう

これからは、どのようなことに気を付けて学習を進めていこうか。

「5 学習の進め方 (国語)」 「6 学習の進め方 (算数・数学)」

国語は、漢字の学習、話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと、算数・数学は、計算問題、用語・公式、文章問題に分けて、調査の結果を示しています。

漢字や計算の小テスト、単元テスト・定期考査、学力調査等の結果と比べながら、「どのような学習の進め方が、自分の学習の成果や課題につながっているのか」ということを考えることができます。このことを通して、漢字や計算など、具体的な学習の進め方を、どのように改善したらよいかを検討することが大切です。

「7 学習習慣 (学習塾や家庭教師による学習等を含めない)」

学力向上を図るために、学校以外での学習習慣を身に付けさせることも重要です。

児童・生徒の調査結果から改善を図ることができる内容があれば、面談等の機会に児童・生徒や保護者等に具体的に伝える際の参考とすることができます。

調査結果の活用② 学校票 (学校調査、児童・生徒調査)

学校票は、都調査の学校調査の結果及び学年・学級ごとの児童・生徒の調査の結果を帯グラフ等でまとめています。自校の結果と東京都全体の結果が並べて示されており、東京都全体の傾向と比較することができます。また、学校調査と児童・生徒調査には関連する項目があり、教師と児童・生徒の意識の差を把握することができます。例えば、学校調査で「当てはまる」と回答した「児童・生徒が学習した内容を振り返る際に、どのように振り返ったらよいかを具体的に示すようにしている。」について、児童・生徒調査の「授業では、学習した内容をどのように振り返ったらよいかを、教えてもらっていると思う。」では「当てはまる」又は「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童・生徒の割合が6割だった場合、教師の指導に対する意識と児童・生徒の意識に差があることが分かり、授業改善のポイントの一つと考えられます。

学校調査と児童・生徒調査の関連する項目

学校調査	児童・生徒調査
2 学習指導の工夫 (学校全体の取組)	3 学習の動機
(1) 新しいことを知ったりできるようになったりする楽しさを児童・生徒が実感できるようにしている。	(1) 分かることやできることが楽しいから。
(2) しっかり考えられるようになったと児童・生徒が実感できるようにしている。	(2) しっかり考えられるようになりたいから。
(3) 学習する内容と実生活や社会とのつながりを児童・生徒が実感できるようにしている。	(3) 将来の仕事や生活に役立つから。
(4) 児童・生徒が互いに学び合う楽しさを実感できるようにしている。	(4) 友達や先生と学習するのが楽しいから。

4 学習指導の工夫（各学年の取組）	12 学習指導の工夫
(1) 児童・生徒が取り組む問題や活動は、達成感を感じられるようなものになっている。	(1) 授業では、問題や活動に取り組んで「できた」「分かった」と感じる人が多いと思う。
(2) 児童・生徒が前の時間までに学習した内容と本時の学習内容を結び付けて理解を深められるようにしている。	(2) 授業では、前の時間までに学習した内容と結び付けて考える時間があると思う。
(3) 児童・生徒が他の教科等の授業で学習した内容や学習の進め方を生かして、効果的に学習を進められるようにしている。	(3) 授業では、他の教科の授業で学習した内容を生かして考える時間があると思う。
(4) 児童・生徒同士が考えを交流しながら課題を解決する学習を取り入れている。	(4) 授業では、他の人と考えを交流しながら課題を解決する活動を行っていると思う。
(5) 児童・生徒が理解したことや考えたことを、他の児童・生徒や教師に説明する活動を取り入れている。	(5) 授業では、自分が理解したことや考えたことを他の人や先生に説明する時間があると思う。
(6) 児童・生徒が学習した内容を振り返る際に、どのように振り返ったらよいかを具体的に示すようにしている。	(6) 授業では、学習した内容をどのように振り返ったらよいかを、教えてもらっていると思う。

都調査では、個人票、学校票以外にも、**項目集計表（クロス集計表）**や**解答状況整理表（S-P表）**を作成することができます。

具体的な活用方法等の詳細は、次号以降の Scrum で紹介します。

◇組織的な取組を通じた授業改善の推進

都調査や国調査の実施により、各学校は、学力についての様々なデータを利用し、多様な視点からの分析や活用が可能となります。

授業改善に向けて、職員会議や学年会、研修会等でどのようにデータを活用することが可能か、どのように活用することで組織的、継続的な取組に活用できるか、各学校の実態に応じて、管理職、教務主任、研究主任、学年主任等を中心に検討していくことが重要です。

日頃の指導で感じていた課題とデータ分析の結果とで共通する部分や異なる部分、組織的に分析することによる気付きや発見等があれば、確かな根拠に基づく効果的な授業改善を一層推進していくことができます。

家庭学習の啓発資料の配布（令和4年3月）

東京都全体の結果を分析し、効果的な家庭学習の在り方等に関する保護者向け資料を PDF データで送付する予定です。

なお、本調査について、令和3年3月に作成した、保護者向けの説明資料を以下のサイトに掲載しています。

○令和3年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」（東京都教育委員会）のお知らせ

URL : https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/content/files/research_and_report/r3.pdf



道徳科の指導の充実に向けて

～「特別の教科 道徳」授業力向上セミナーの報告～

令和3年11月25日（木曜日）東京都教職員研修センター111研修室にて、「特別の教科 道徳」授業力向上セミナー（中学校）を開催しました。本セミナーは、二つの授業実践を、指導の工夫や生徒の様子など、ポイントとなる場面の動画を中心として、授業者に説明していただきました。それらを踏まえて、「道徳科の指導の工夫」や「道徳科の指導におけるICTの活用」など、道徳科の指導の充実に向けて、協議を行いました。教材「思いやりとは……」を扱った授業では、デジタル端末を活用した事例を紹介しました。

「思いやりとは……」（中学校 B 思いやり、感謝）

【主題名】 「思いやり」とは何かを考える

【ねらい】 思いやりの心をもって相手に接しようとする道徳的実践意欲と態度を養う。

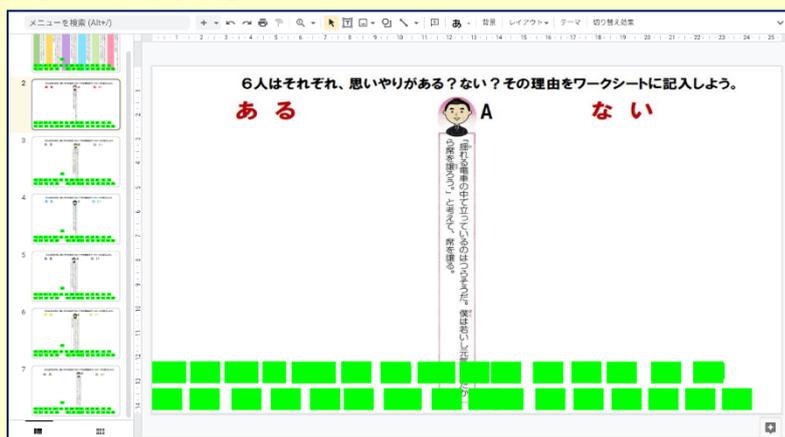
【教材名】 「思いやりとは……」（東京都道徳教育教材集「心みつめて」）

ちょっと想像してみましょう。
あなたは今、遊びに出かけた帰りで、電車に乗っています。あなたは座席に座っていますが、電車は混んでいて空いている座席はありません。
ある駅で一人のお年寄りが乗ってきました。手には杖を持ち、少し足を引きずるようにしています。それを見たあなたはどうしますか？
例えば……（6人の考えや行動の例を紹介）

【指導展開例】

導入	<ul style="list-style-type: none">◆ 教材を教師が範読する。○ 活動1（意見を共有できるソフトで、自分に一番近い考えの人のところに名前 の付箋（図形で代用したもの）を貼る。） 「一番近いと思う人のところに名札を貼ろう。」
展開	<ul style="list-style-type: none">○ 発問1（意見をワークシートに記入し、全体で共有する。） 「6人にはそれぞれ思いやりがあるか、ないか。また、その理由も併せて考えよう。」○ 発問2（振り返りのワークシートに記入させる。） 「何をもって『思いやり』があると言えるのだろうか。『思いやり』とはなんだろうか。」 ※ 「思いやり」について問い返しを行いながら、考えを深めさせる。
終末	<ul style="list-style-type: none">◆ 本時の学びを整理し、振り返る。 本時の学習を通して「思いやり」についてどのようなことを考えたり学んだりしたかをワークシートに記入させ、考えをまとめさせる。

【ICT活用事例】



◆ 6人の考えや行動の思いやりの「ある」、「なし」を問う

6人の考えや行動への意見を基に話し合いを進めるためには、各自のタブレットを使用した意見を共有できるソフトが有効である。生徒全員が一斉に意見を示すことで、授業者は、誰がどちらの立場の意見なのかを短時間で把握することができ、意図的に生徒を指名して、意見を聞くことができる。

教材「海と空 – 樫野の人々 –」を扱った授業では、発問1と発問2を基に、発問3「私」が水平線を見ながらどのようなことを思ったのかについて考えさせる指導を工夫し、授業実践を行った。このことによって、子供たちが世界の平和や人類の発展に貢献するという思いをもち、その実現のために国際社会の中で、国際協力や国際協調に向かう考えを深めることができるようにする。

「海と空 – 樫野の人々 –」(中学校 C 国際理解、国際貢献)

【主題名】 他国を尊重し、世界の平和に貢献する

【ねらい】 日本とトルコの間で起きた出来事や関係性について考えることで、他国を尊重し、世界の平和と人類の発展に寄与しようとする道徳的心情を育てる。

【教材名】 「海と空 – 樫野の人々 –」 (「私たちの道徳」文部科学省)

1985年のイラン・イラク戦争のさなか、イラン在留の日本人たちは、脱出の手段を失っていた。緊迫した状況の中、トルコ政府が救援のための飛行機を出してくれたことから無事に帰国できた。トルコ政府が救援機を出してくれた背景には、1890年のトルコ船籍エルトゥールル号遭難の際の樫野の人々の行動があった。

【指導展開例】

導入	<p>◆ プレゼンテーション用ソフトや動画を使用し、教材の内容の背景などについて説明する。</p> <p>○ 日本とトルコの関係、エルトゥールル号の遭難事故、イラン・イラク戦争の際のトルコ政府の日本人救出について確認する。</p>
展開	<p>◆ 教師が教材を範読する。</p> <p>○ 発問1 「ありったけの食料を差し出すなど、樫野の人々が遭難した69人のトルコ人を助けたのはどうしてだろう。」</p> <p>○ 発問2 (2人組で意見共有させる。その後全体で意見共有する。) 「トルコの人々が自国の国民より優先して日本人の救出に当たったのはどうしてだろう。」</p> <p>○ 発問3 (ワークシートに記入させた後、4人組で話し合いをさせる。ホワイトボードを使用して発表し、全体で意見共有する。) 「私は、水平線を見ながら、どのようなことを思っていたのだろう。」</p> <p>○ 発問4 (ワークシートに記入する。) 「今日の授業で思ったこと、考えたこと、学んだことを書きましょう。」</p>
終末	◆ 教師による説話。

【生徒の意見(抜粋)】

◆ 発問3での意見

- ・ 日本人とトルコ人で違うところはあるけど、助け合うことについて同じ考えをもっている。
- ・ 水平線が海と空で交わる場所だから、トルコ人の海難を助けた日本人と、日本人の空の危機を助けたトルコ人の気持ちは同じだった。
- ・ 人を思う気持ちは世界共通だ。
- ・ 海と空が一つになるように、世界の人々が一つになればいい。
- ・ 水平線で海と空がつながっているのを見て、日本とトルコのつながりを感じた。
- ・ 国を越えて助け合うことのすばらしさ。

◆ 発問4での意見

- ・ 一人でも多く救うという心が、どんな国でも時代でも大切だったのを学んだ。
- ・ 人の助け合いは、身近なものだけでなく、国境を越えても大切になると思った。
- ・ 自分も何か人の役に立てるようなことをしてみたくなった。
- ・ 住む国や生活習慣などが違ってても、同じ人間として助け合うことは必要だと思った。助け合いの連鎖が起きることによって平和な世界が作られていくと考えた。

道徳教育において育む『生命の尊さ』について

生命を大切にそれを尊重するという事は、かけがえのない生命をいとおしみ、自らもまた多くの生命によって生かされていることに気付くことから始まります。お互いの生命は大切なものであって、決して軽々しく扱われてはならないものだということを理解していくことが重要です。

都独自の道徳教育教材集「心あかるく」（小学校1・2年生版）、「心しなやかに」（小学校3・4年生版）、「心たくましく」（小学校5・6年生版）、「心みつめて」（中学校版）では、『生命の尊さ』についての読み物教材、自分自身を見つめ直すことができる資料や、ワークシートを掲載しています。「特別の教科 道徳」をはじめ、学校の教育活動全体で取り組むことにより、家庭で子供たちと保護者が一緒に考えたり話し合ったりすることにつなげることもできます。学校と家庭とが一体となって、子供たちの豊かな心を育む取組に、ぜひ御活用ください。

『生命の尊さ』についての教材



小学校

『心あかるく 小学校1・2年生版』

第三章 ⑰いのちって あたたかい

『心しなやかに 小学校3・4年生版』

第一章 「命有る者は…」

「生きているって…」

第二章 「三河島のつる(荒川区)」

第三章 ⑱いのちをかがやかせよう

『心たくましく 小学校5・6年生版』

第一章 「一日の命…」

第三章 ⑲生命の尊さを感じて、精一杯生きる

- ・様々な動物の赤ちゃんの写真から、生命あるものに対する愛情や慈しみの心を育みます。
- ・「いのちが、『ぴかっ』と光るときがある」を読み、自分の生活を振り返って話し合うことができます。

- ・授業や運動、作品作りなどの場面の絵から「命が輝く」とはどういうことか考えます。
- ・「汗がキラキラと輝く瞬間」や「うれしさに涙がこぼれ落ちた時」等をイメージすると子供たちが考えやすくなります。

中学校

『心みつめて 中学校版』

第一章 「生まれてきてくれて、ありがとう

一助産師からのメッセージ」

「焼けた空」

第三章 ⑲かけがえのない生命をたいせつにしていく

「命」 宮越 由貴奈

- ・資料では、恵子という主人公が江東区の戦争の記録を調べることで、生命を尊重する心情を養っていく経過が綴られています。恵子の心情の変化を通して、生徒自身が生命の大切さを理解し、尊重していく展開が考えられます。



- ・5歳のときに発症した神経芽細胞腫との闘病生活の末に11歳で短い生涯を終えた宮越由貴奈さんについて説明して、静かに詩を読んで、生命の尊さについて考える活動ができます。